

— 新しい生活様式に対応したキッチン —

新型コロナウイルスが日本で広がり数か月が過ぎ、テレビなどでは「新しい生活様式」という言葉が出てきました。新しい生活様式に基づきなるべく手で触ることなく、買い物の回数を減らすために食品をストックしておく、などの観点からブルム社の金物を使ったキッチンをご紹介します。



キッチンの電動化

海外ではIH調理器や照明だけではなく、引出や特に吊戸棚のフラップ扉の電動化が大きく進展しています。電動化に遅れたキッチンメーカーは今後生き残れないのではないかとはいく、**「ハンドルフリー & 電動化」**がデザインの自由度をうみ出しています。

肘や膝で軽くプッシュするだけで引出が開きますので、複数の家族が使用しても手のひらで触る回数を減らすことができます。

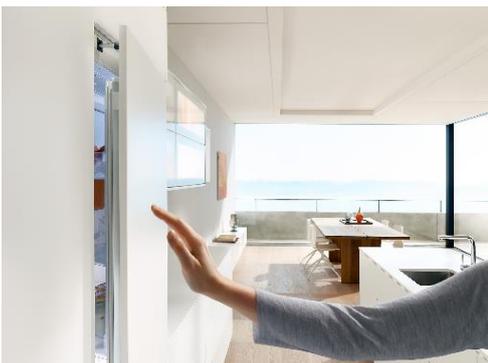
日本人は礼儀正しいので肘や膝を使ってキッチンの引出を開けることに抵抗があるかもしれませんが、今回の感染症対策でコンビニがドリンクを保冷しているガラス戸を足で開けられるよう工夫したそうです。初めは抵抗のあった人も多かったようですが、好評のようでした。



スペースタワー

スペースタワーとはツールキャビネットに引出が付いた食品のストック庫です。海外ではタンDEMボックスやレグラボックスが採用されたキッチンがほとんどとなり、ここでもデザインの自由度の高まりに対応してブルム社のレールが数多く採用されています。

今回の感染症対策では買い物は3日に一度が提案されていました。自宅での食事の回数の増加に伴いストックしておく食材の量が増えています。また災害が多い日本では乾物や缶詰、レトルト食品、非常食など食品のストックが多くなってしまいます。引出型の食品庫であれば横から取り出すことができますし、奥の食品まで一目瞭然で家族の誰が見ても取り出しやすい構造になります。



冷蔵庫

冷蔵庫の扉もサーボドライブフレックスを使えば電動が可能です。キッチンの電動化と同じく複数の家族が使用しても手のひらで触る回数を減らすことができます。また調理中の手で扉を触らなくても開閉できますので、お掃除も楽です。

以上、それぞれにデニカ社にてお手伝いさせていただきますので、キッチン空間の設計においても新しい生活様式と一緒に考えて対応していきましょう。